

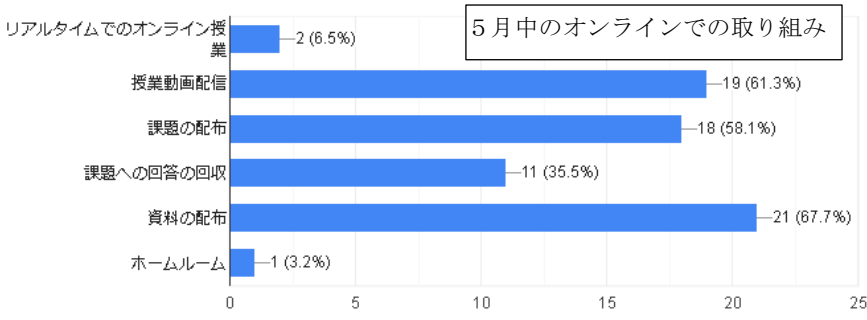
## 学校評価結果

令和2年2学期末に、本校教員による学校自己評価アンケートを実施しました。またその結果をもとに、本校の学校関係者にご協力をいただき、関係者評価を実施しました。結果を簡単にまとめて報告します。

今回は感染症対策を実施する中で、オンラインを主軸とする学校運営を行った期間と、対面式授業を再開した期間についての評価が主となっています。

### 1. 自己評価

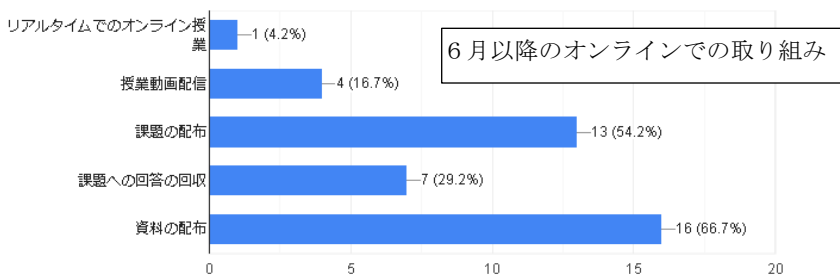
○5月中、オンラインでの授業実施について



オンラインで行った取り組みについて（上表）では、授業動画の配信、課題、資料の配付の割合が多くなっています。また「自由参加で生徒達が取り組む環境を作った」「質問室での公開対話」「音声付きスライドで授業内容を解説」「YouTubeでの配信」など、様々な形で学習の場を作っていたことが窺われます。一方で「準備に普段の授業の数倍の時間と労力を要した」「授業内容の定着に不安を感じる」「生徒への声かけやアプローチに苦勞した」など、難しい点の指摘もありました。「慣れない中で生徒も教員も努力した」という意見が、実際をよく捉えています。

○6月～現在まで、対面授業再開後について

授業方法、生徒の授業への取り組み方、生徒の授業以外の活動への取り組み方について、昨年以前から変化したかどうかたずねました。回答の平均はそれぞれ2.8、2.8、2.9と高くも低くもなく、大きく変化したという認識は共有されていないようですが、やはりそれなりに変わっている部分はあるようです。6月以降のオンラインでの取り組みについて（左表）では、資料や課題の配付が行われていたことがわかります。「授業にICTを活用する質が向上した」「資料配付などをオンラインで済ませることが増え、カラーのデータなどを渡しやすくなった」など、オンライン時に進んだICT技術の導入を受け、内容や利便性が向上しているという報告がある中で、「うまく活用できる生徒と、電子デバイス操作が苦手な生徒との格差が生じている」「種々の制約があり、生徒とのやりとりが難しくなった」など、課題も見受けられました。



○6月～現在までの様々な事柄について  
授業以外の様々な事柄について意見を募りました。代表的なものをご紹介します。  
・学校行事「感染に配慮して適切に実施していた」「実施そのものが厳しい中で、可能な限り生徒が実現を目指しており、よく取り組んでいる」  
・部活動など課外活動「ある程度の規模縮小は仕方ない」「生徒たちの生活には、授業と同等に必要なものであると感じた」

・感染症対策「完璧はありえないができることはやっている状況」「マスク着用、教室の除菌、時間差通学など、可能な限りの感染症対策が実施された」

○本年度の学校全体のことについて

社会全体で感染症が広がりを見せてきた中で、本校全体に関する事柄について意見を募りました。「コロナでスマホ依存が加速することを危惧」「生徒を規則で縛るのではなく、一人の人間として信頼して接する校風を、今後も大事にした」「感染症という目に見えないものに対峙する日々が続いているが、学校としてはやるべきことをその時に判断しながら、良い形で今日まで来ている」など、様々な角度からの声がありました。

### 2. 関係者評価

「5月中、オンラインでの授業実施」の評価、「6月～現在まで、対面授業再開後」の評価、「6月～現在までの様々な活動」の評価、「学校全体」の評価について、「評価項目の構成」、「各項目の点数」のそれぞれの妥当性について、平均して3.7ポイントの高評価を頂きました。

また非常に多くの温かくかつ建設的なご意見をいただきましたので、いくつかご紹介いたします。「オンライン授業に向けての教員の奮闘ぶりが窺えた」「ブレンド型授業など、対面授業を補いさらに凌駕しているのではないか」「コロナ禍の中でも安全対策を万全にし、可能な行事は実施する前向きな姿勢が分かった」など大変よく見てくださっています。

### 3. 終わりに

難しい社会状況の中、有益な自己評価、関係者評価を実施することができました。この一年間の多岐にわたる取り組みについて各教員が、そして関係者各位を含む本校全体が振り返る貴重な機会になりました。今回の評価結果や多数の意見を、今後の学校運営へと生かしていきたいと思っております。